



・医師の動き

<昇任>	2022.6.1付	桑原 篤憲 (くわばら あつのり)	総合診療科	部長	←	副部長
	2022.6.1付	吉田 浩司 (よしだ こうじ)	消化器内科	部長	←	特任部長
	2022.6.1付	仁科 惣治 (にしな そおじ)	消化器内科	部長	←	副部長

・リハビリテーションセンターからの情報

高次脳機能障害者の支援のご案内

当院は、2002年度から厚生労働省 高次脳機能障害支援モデル事業の拠点病院となり、2006年度からは「高次脳機能障害支援普及事業」、2013年度からは「高次脳機能障害およびその関連障害に対する支援普及事業」と名称変更され、高次脳機能障害者の支援を行っています。

高次脳機能障害とは、脳卒中や交通外傷、その他の脳の疾患などによって、注意障害 記憶障害、遂行機能障害、社会的行動障害（これらを「行政用語としての高次脳機能障害」といいます。）や失語症、失行症、失認症などの症状を示すものです。

当院リハビリテーション科・リハビリテーションセンターでは、高次脳機能外来を開設し、診断・評価及び相談支援を行っています。幼少期の交通事故による脳外傷などで長期間経過している場合についても高次脳機能障害が疑われる場合には、MRI、SPECT等の画像診断と高次脳機能検査の組み合わせにより診断・評価を行います。高次脳機能障害と診断された患者さんに対しては、個別訓練、集団訓練や家族支援を必要に応じて行っています。2021年度の高次脳機能外来の受診件数は498件で、それ以外に患者さんやご家族さんからの電話相談の対応、当院以外の支援機関との連携を行いました。

自動車運転が必要な高次脳機能障害の患者さんに対しては、基本的な高次脳機能評価を実施しその段階をクリアすれば、HONDA セーフティナビ、運転適性検査（以下、CRT）を用いた模擬運転評価を行っています。

入院患者さんには、急性期に必要な高次脳機能評価を行い、転院先の医療機関に情報提供を行っています。

高次脳機能障害は目に見えない障害のため一般の人からは理解されにくく、患者さんの生活のしづらさは窺い知れないものです。

当センターでは医師の診断の上、機能障害へのアプローチにとどまらず、患者さんご家族、医師、ソーシャルワーカー等の職種と協働して生活面や社会面へのアプローチを行っています。

リハビリテーションセンター センター長 花山 耕三
療法士長 宮崎 彰子

病院理念

- 1.医療は患者のためにある
- 2.すべての患者に対する深い人間愛を持つ
- 3.24時間いつでも診療を行う
- 4.先進的かつ高度な医療・教育・研究を行う
- 5.地域の医療福祉の向上と医療人の育成を行う

〒701-0192 倉敷市松島577
川崎医科大学附属病院 地域医療連携室

TEL <直通> 086-464-1567
<代表> 086-462-1111
(内線: 22611・22613)
FAX <直通> 086-464-1166